

人材育成WG

日本OSS推進フォーラム
人材育成WG 主査 (NTTコムウェア)
竹川直秀

人材育成WG:活動概要

設立:2004年10月

メンバー:

NTTCW(主査)、NEC、日本SGI、Miracle Linux、VA Linux Systems Japan、Good-Day、三菱総合研究所、東京大学、早稲田大学、神戸情報大学院大学

活動ミッション

北東アジアOSS推進フォーラムWG2(人材育成)における共同タスクフォースの遂行

TF1: 調査企画 (第3回北東アジアOSS推進フォーラム議長声明 2004.12.2 at ソウル)

「OSSの教育と研修に関する目的、手法、範囲、成果共有の方法等の調査の枠組みを定める。

また、本TFは「貢献者」とその計測手法を定義し、貢献者の増加のための手段を講ずる。」

TF2: コンテスト企画 (同上)

「2005年北京フォーラムへの準備としてOSSコンテストの計画を開始する。」

日本OSS推進フォーラムの人材育成WG活動

日本における人材育成を考える構図を定義する。その構図の中で、日本に必要な課題の明確化を行い、プロジェクトを図る。

人材育成WG: OSSのプレイヤー

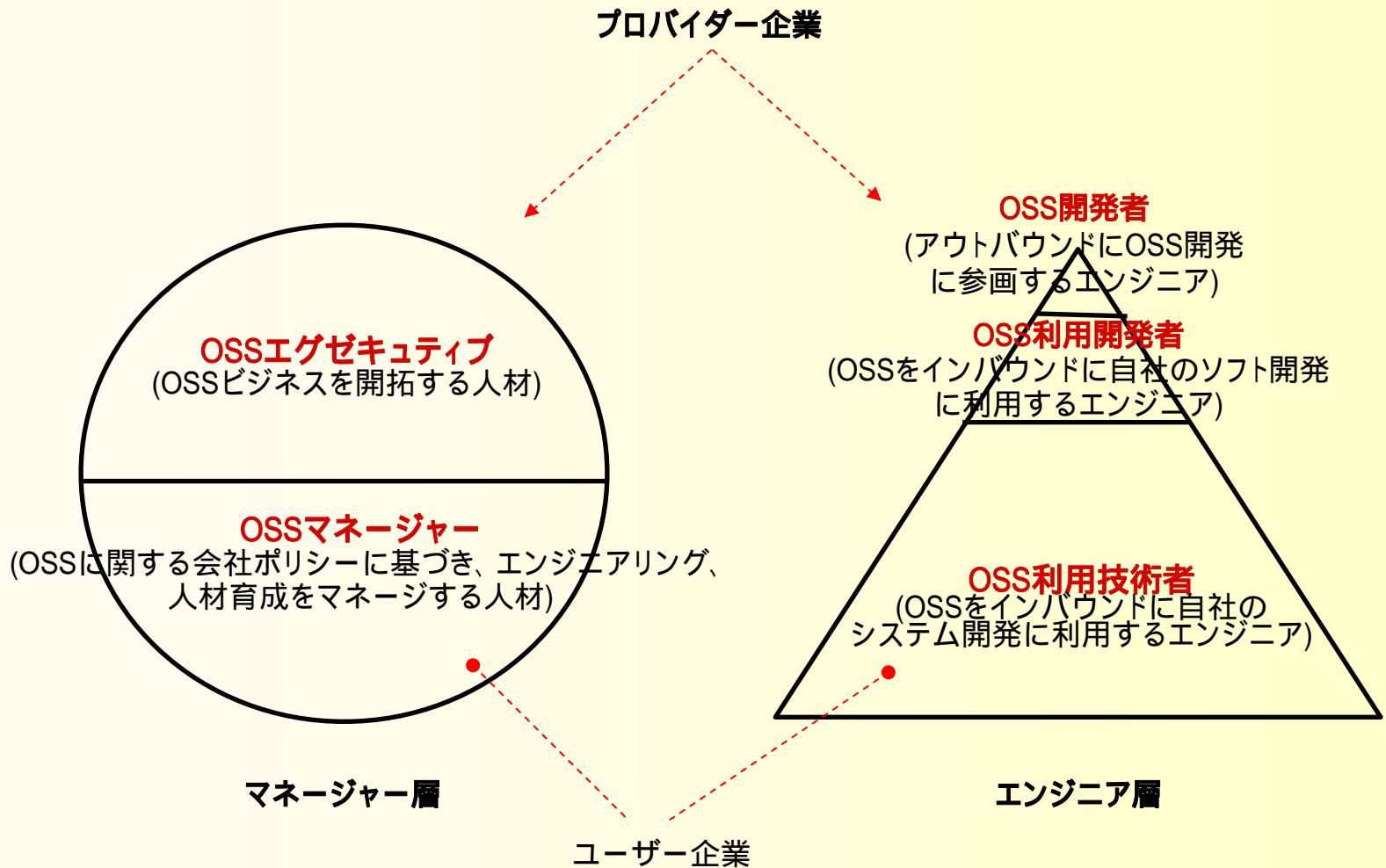
	ユーザーとして	アクターとして	オーナーとして
開発コミュニティ	日常使用	開発に関するパラダイムシフター	開発ディレクション
ユーザー企業	先駆的OSS利用 追従的OSS利用	バグレポーター or ブラックボックス 利用	クレーム権利
プロバイダー企業	先駆的なOSS利用者 自社はOSSショウケース	開発への参加 OSS活用の提案者	OSS利用製品

J.Feller, B. Fitzgerald: Understanding Open Source Software Development, Addison Wesley 2002の枠組みを利用

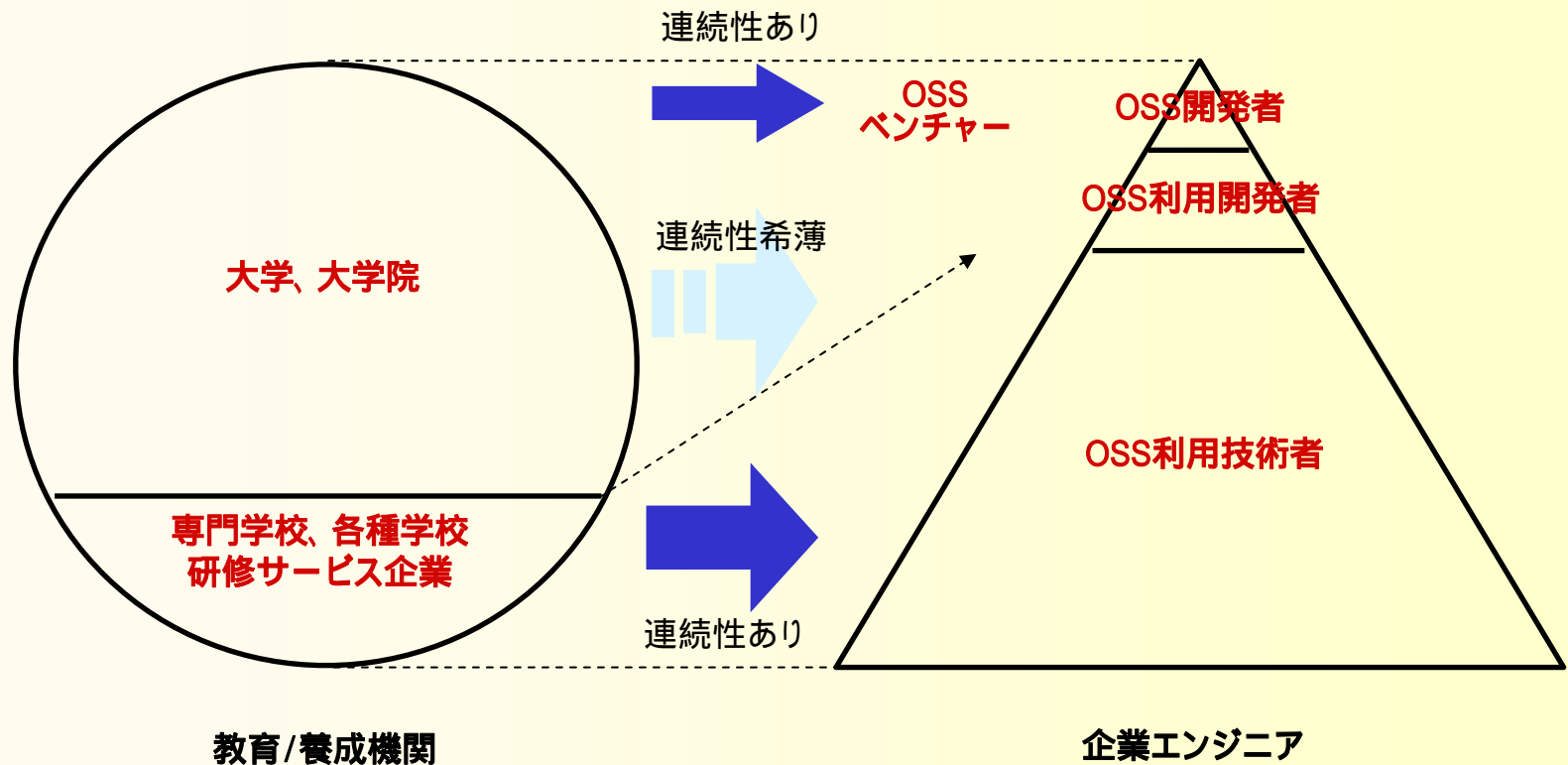
人材育成WG: OSSのプレイヤーと人材

	ユーザーとして	アクターとして	オーナーとして
開発コミュニティ	日常使用	ソフト開発に関する パラダイムシフター < OSS開発者 >	開発ディレクション < OSS開発者 >
ユーザー企業	先駆的OSS利用 追従的OSS利用	バグレポーター or ブラックボックス 利用 < OSS利用技術者 >	クレーム権利 < OSS利用技術者 >
プロバイダー企業	先駆的なOSS利用者 自社はOSSショウケース	OSS開発への参画 OSS活用の提案者 < OSS開発者 > < OSS利用開発者 > < OSS利用技術者 >	OSS利用製品 < OSS利用開発者 >

人材育成WG:企業におけるOSS人材



人材育成WG: 学校とOSS人材



人材育成WG: OSS人材を育てる。日本でどのようなプロジェクトを起こすべきか

企業

弱点1: OSS開発に参加する企業エンジニアが少ない。

(全世界の2%程度(GDPは17%程度)/ LinuxKernelDeveloperの65%は会社員)

成果1: ORCAプロジェクト、ニュートーキョウなど(プロジューサの存在)。

成果2: OSSベンチャーの活躍(VA, Turbo, Miracle, TenArtni)。

プロジェクト候補1: 企業のOSS活動ポリシー (OSS/Proprietary = Hybridの会社環境づくり)に関するプロジェクトは作りうるか?

プロジェクト候補2: OSS開発のパイロットモデル

プロジェクト候補3: OSS開発者の表彰

大学

弱点1: ソフトウェア、OSを教えるコースが少ない。

弱点2: 産/学の連続性/連携がない(就職/プロジェクト)(中国では連続している)。

プロジェクト候補1: 産学連携や大学連携のパイロット。

プロジェクト候補2: コースウェア/e-Learningのパイロット。

人材育成WG：日本OSS推進フォーラム賞

概要

日本において、OSS開発に貢献したプロジェクトの開発者を毎年表彰する

予定

5月20日：日中韓WG2(人材育成)会議 at 北京

6月上旬：国内プレスリリース

8月下旬：国内審査結果発表

9月上旬：国内表彰式

9月下旬：第4回北東アジアOSS推進フォーラム(中国)での日中韓表彰